

■ 事業継続・災害対策特集によせて

平素より、NECの製品・サービスのご愛用を賜り、厚く御礼申し上げます。
集中豪雨や地震など、近年相次いで大規模災害が猛威を振るう中、企業の防災・危機管理対策の重要性が改めて認識されています。こうした状況で、実際に災害や事故に遭遇した場合のダメージを最小限にとどめ事業を早期に復旧させる事業継続計画書(Business Continuity Plan:BCP)への関心が高まっています。内閣府は2005年8月に「事業継続ガイドライン」を発表し、企業に対して大災害や大事故の発生時にも重要な業務を復旧し事業継続ができる基盤作りを求めています。また、国際的にはBCPのISO化が検討されたり、さらに、2008年4月事業年度からの適用が見込まれている日本版SOX法への対応においても、事業継続・災害対策への取組みが求められるものとみられています。

BC/DR(Business Continuity/Disaster Recovery)は、企業や組織における重要な事業を災害発生時にいかに早く復旧・継続するかという観点に着目した新しい危機管理の考え方であり、災害発生時のみにとどまらず平常時でも中長期的戦略の視点でとらえるべきものです。また最近では、事業継続力が企業選別基準や競合する他社との差異化に活用されるなど、BC/DRへの取組みが企業の市場競争力に直結するようになってきています。

一方、BC/DRを実践する局面、特に企業経営に欠かせない情報システムの運用維持の面に視点を移すと、従来はバックアップサイトに本番システムと同じ構成のシステムを設置し、ストレージレプリケーション機能を利用して遠隔データ同期を行うことで、被災地から離れた場所で重要な情報システムを継続して動かすことを可能としてきました。この手法はハイスペックである分、高価なものとなり、BC/DRの普及に拍車がかかりにくい要因となっていました。ところが最近のIT・ネットワークを取り巻く市場環境においては、次世代ネットワーク(Next Generation Network:NGN)構築に向けた動きが活発化してきており、今後はNGNによって遠隔地にあるリソースの仮想化が容易になることが予想されま

す。これにより、BC/DRによるバックアップサイトの構築・運用が一層柔軟に行われると思います。

また最近では、ストレージ間でデータをバックアップする技術が進み、データの逐次コピーにより最新データを保持しやすくなったり、アーカイブ技術の進展でネットワークを通じたデータ送受信の手間が軽減できるようになったので、BC/DRが多様な形で普及していくと考えられます。

NECでは、こうした最新のハードウェア提供やDRシステムの構築と、運用をリカバリーするアウトソーシングサービスによる支援はもとより、事業継続に向けたお客様の業務分析、事業継続の企画・プランニング、災害訓練(リハーサル)支援までのPDCAサイクルに基づいたソリューションをトータルにご提供いたします。また、BC/DRサービスにいち早く取り組むため、BC事業における世界のリーディングベンダである米国SunGard社*と2年前に協業を開始し、ノウハウを蓄積し磨いてまいりました。さらに、NEC社内でのBC/DRへの取組みをリファレンス化し、お客様にご提供できるよう体制を整えています。

今回の「事業継続・災害対策特集」では、NECがご提供する事業継続・災害対策に関する各種サービス・関連ソリューションを始め、NEC自身のBCに対する取組み・各種導入事例・将来技術などについてご紹介いたします。NECはコンサルティングからSI・運用まで、IT・ネットワークシステムのライフサイクルをトータルサポートすることで、お客様の企業価値向上に貢献していきたいと考えています。

今後とも、皆様方の変わらぬご指導とご鞭撻を賜りますようお願いいたします。

執行役員常務
谷岸 一善



*会社名 : SunGard Availability Services

所在地 : 680 East Swedesford Road, Wayne, PA 19087, U.S.A.

Webサイト : www.availability.sungard.com